

## 人とのつながり

### A氏（10代 男性）

中学生の頃、部活動ではいわゆるいじめられキャラで、激しいいじりを受けているうち体調が悪くなり、なんとも思っていなかった外から持ってきたバッグや着て行った服を汚いと感じるようになりました。そのため、学校に通うことがかなりの苦痛になり、中学2年の頃、不登校になりました。家に引きこもり、ゲームばかりしている生活が長く続きました。そしてそのまま高校に入学したものの1ヶ月で行かなくなり、留年もしてしまいました。その後、通信制の高校に移りましたが、このことは家族を大変落胆させました。今でもそのことを後悔しています。その頃には悪友とつるみ、深夜徘徊などをして、警察に補導されかけたことまでありました。その時はそれなりに楽しかったものの、今思えば無責任な生き方でした。

高校をやめて少し経ってから、不潔に対する恐怖の克服と社会復帰のため、私は太田病院に通い始めました。初めは行かないこともありましたが、私がかかっていた太田先生や心理士の方々は、引きこもって人との付き合い方を忘れて、警戒していた私を導いてくれました。その頃私は料理にハマリ、特にインドのカレーを作ることに凝っていました。おいしいカレーを作るため、本で勉強したり、スパイスや食材を集めに町を探し回ったりしていました。そんな中で、先生にそのことを伝えたところ、「病院で作ればいいんじゃない？」と言われ、病院で職員の方々に作らせてもらえることになりました。実際に病院の調理室で作り、振る舞ったところ、とても好評で、ただただ嬉しかったです。その後も、コロナ禍になるまで何度も作りに行かせてもらうことができました。このことで、私は得意なことというものを初めて作ることができ、自分に少し自信が持てるようになったと思います。今でも料理や食は私の人生の指針となっています。

社会での経験を積むため、コロナ禍になる少し前から、先生の紹介で、病院の厨房でパート従業員として働かせてもらっていました。たくさんの人と関わる仕事で、以前からの不潔に対する恐怖と人に対する不信があり、働くことが初めてだったこともあり、苦労しました。ですが、様々な人の支えの中で、社会というものを知り、その中で自分を大きく成長させることができました。また、病院のナイトケアにも通い、対人スキルの向上にも、努力しました。

たくさんの方があった中で、私は母のしている栄養士という仕事の魅力に気づき、管理栄養士を目指すことに決めました。志望している大学に入学するために、塾に通って勉強しました。そして今、私は管理栄養士の資格をとるために大学で勉強しています。今、私が思うことは、人とのつながりを大事にすることこそが、悪い方向に傾いた人生を元に戻す最良の方法であるということです。病院で関わった、たくさんの方のおかげで、私は今ここまで回復できています。このことを胸に刻みながら生きていくつもりです。